

2026年度新入社員向け社長挨拶（要旨）

カナデビア株式会社 取締役社長兼グループ CEO 桑原 道が4月1日の入社式で新入社員向けに訓示を行いましたので、要旨を下記のとおりお知らせいたします。

皆さん、本日はご入社、誠におめでとうございます。

今年度は、事技職134名、工場勤務の技能職25名、あわせて159名の新入社員を迎えることができました。皆さんを、私たちの新しい仲間として迎えられることを、心からうれしく思います。

当社はいま、大きな変革の時を迎えています。橋梁事業からの撤退、日立造船マリンエンジン株式会社および株式会社ブイテックスの株式譲渡、全固体電池の事業譲渡、日鉄エンジニアリング株式会社との経営統合の検討開始など、将来を見据えた重要な判断が続いています。

これらはいずれも、カナデビアが持続的に成長していくために踏み出した、未来への一歩です。未来への一歩という意味では、皆さんも本日、まさにキャリアの第一歩を踏み出しました。キャリアについて少しお話しします。

キャリアは自分自身のものです。自分を軸に自律的に築いていくものです。そして会社は、それを個人任せにするのではなく、しっかりと支援していきます。

とはいえ、「変化の激しい時代に、キャリアをどう考えればいいのか」と、不安に思う人もいるかもしれません。

私の好きな本の一つに、『ピクサー流 創造するちから』があります。アニメーション制作で知られるピクサーの共同創業者、エド・キャットムル氏の経営哲学をまとめた本です。業界は違いますが、私は常々、ピクサーのような創造性あふれる会社を目指したいと考えています。

その本に、こんな言葉があります。

“道は選ぶだけではだめで、進まなければ意味がない。だが、そうすれば、歩き始める前には見られなかった景色が見えてくる。見たくないこと、惑わされることもあるかもしれない（中略）ここで重要なのは、たとえ間違った場所に出たとしても、まだ正しい場所へ向かう時間があることだ。いろいろ考え、その道を選んだことは無駄にはならない”

皆さんは、カナデビアをキャリアの第一歩として選び、歩き始めました。歩き始めると、期待と現実のギャップに直面することもあるでしょう。失敗することもあります。しかし、その一つひとつは決して無駄にはなりません。

私は、皆さんに「カナデビアという会社を使って、早く、そして多くの失敗をしてほしい」と思っています。それこそが、若い皆さんに与えられた最大の特権です。

もう一つ、17世紀フランスの哲学者パスカルの『パンセ』の言葉を紹介します。

“森の中で道に迷ったときには、あちこちに行こうとせず、一つの方向を定めて、まっすぐ進み続けるほうがよい”

方向を変え続けると、同じ場所を回り続け、森から抜け出せません。重要なのは、完璧な情報を待つことなく、方向を定めて歩き出すことです。たとえ、出た場所が思っていたところと違っていても、そこから軌道修正すればよいのです。

私たちが日鉄エンジニアリングとの経営統合の検討を進めているのも、「サステナビリティ社会の実現」という目標に向かい、まず走り出した結果だと言えるでしょう。

皆さんにも、ぜひこの目標に向かって、ともに歩む仲間であってほしいと思います。

創業者 E.H.ハンターは、未知の環境に飛び込み、「まずやってみる」姿勢で道を切り拓いてきました。この「挑戦の精神」は、いまのカナデビアにとって、最も重要な価値観の一つです。皆さんには、ぜひこの精神を胸に、失敗を恐れず一歩を踏み出してほしいと思います。

当社は、そうした挑戦を個人任せにするのではなく、社員一人ひとりの視点に立ち、主体的な成長を支援できる体制を作ろうとしています。

どうか、このカナデビアというフィールドを存分に活かし、自らの成長につなげてください。私たちは、皆さんのキャリアの門出を心から祝福するとともに、自律的なキャリア形成を全力で支援していきます。

最後になりますが、皆さんの成長と大いなる活躍を心から期待しています。社会人としての初心、そしてご家族やお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、健康に留意し、仕事を楽しむ気持ちをもって、一緒に頑張っていきましょう。

(終)